



現場から（最近のニュースから）

逃亡生活



1970年代に起きた連続企業爆破事件の1つに関わったとして指名手配された「東アジア反日武装戦線」のメンバー、桐島聡容疑者（70）と名乗る人物が神奈川県内の病院に入院しているという情報が警視庁に寄せられ、DNA鑑定などで確認中に亡くなったというニュースがありました。いったい何の事件なのか何をしたのか、すぐに分かる人が少ないと思える49年前の事件の容疑者です。昭和49年（1974年）から翌年にかけて過激派の「東アジア反日武装戦線」が起こした連続企業爆破事件のうち、昭和50年（1975年）4月に東京 銀座にあった「韓国産業経済研究所」のビルに爆弾を仕掛けて爆発させた事件に関わったとして、爆発物取締罰則違反の疑いで全国に指名手配されていたということです。

すでにがんの末期で、「最期は本名で迎えたい」と本名を明かし、警視庁公安部の事情聴取に爆破事件に対しては「後悔している」と語っていたということです。「東アジア反日武装戦線」の捜査に携わった警視庁公安部の元幹部は、「桐島容疑者は、グループの中で主要なメンバーとは言えず、どのように組織に関わるようになったのかなど、分かっていないことが多かった。彼の捜査の難しさは、新しい情報が入ってこないことだった」そのうえで、「全く同情はしないが、死亡したのが桐島容疑者本人だとすれば、50年近くの逃亡生活で彼なりに苦勞して生き延びていたのだろうから、最期は仮の姿から本来の姿に戻りたかったのかもしれない。犯した罪は許されないが、ある意味、時代にもてあそばれた犠牲者の側面もあり、彼を犯罪に引き込んだ人物たちは、責任を取るべきだ」と話していたということです。（1月29日NHKNewWeb<桐島容疑者 名乗る人物死亡 爆破事件の遺族「無念でならない」>より）

さまざまなメディアが桐島容疑者の逃亡生活取材して、明らかにしようとしています。偽名で土木関係の会社に住み込みとして働いていたこと、飲食店やライブがある店に行ってお酒を飲み、音楽が好きであったこと、「自分は女性を幸せにできるタイプではない」と女性との交際を断っていたことなどが報じられています。（テレ朝ニュースより）

たしかに、爆破で殺された人もいる事件を起こしたので、良いとは言えませんが、警視庁公安部の元幹部が語っているように、50年近く、自分ではない自分として逃げながら生きていた人生は、どれほどつらかったのでしょうか。毎日、お酒を飲んで、歌を聞いたり歌ったりして、つらさを忘れようとしていたのでしょうか。しかし、よく見まわしてみると、実際にそのような罪を犯していないのに、毎日、なぜか自分を偽って、つらい思いを隠し、お酒や音楽でまぎらわし、人といっしょにいても何もうまくいきそうになく孤独を抱えて生きている人は多いです。爆破事件を起こしたわけでもないのに、昔を振り返ると痛みを覚える人が多いです。桐島容疑者と同じような人生になっているのではないのでしょうか。最後に本名で死を迎えたかと言っていた容疑者の思いがどんなものかは分かりません。ただ「ほんとうの自分」になって、偽りの上に生きることをやめるとき、何かから解放されるのではないかという思いがあったのでしょうか。あなたも、何かから解放されたい思いがありませんか。いったい何から解放されるべきなのか、そして、ほんとうに解放される道があることについて、あなたにお伝えしたいのです。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故に会い、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になるし、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください